

2021年度 活動報告

～健太と私たちの軌跡～



一般社団法人

健太
いのちの
教室

2022年3月12日 女川にて
横浜市 大豆戸フットボールクラブ
(6年生) いのちの教室実施

活動への応援

賛助会員を募集しています。

わたしたちは、人の生命・身体の安全を第一に守る大切さを学び、各種安全対策に生かすための情報発信・研修等を行い、もつといのちを大切にする社会をつくることに寄与することを目的としております。

皆様のあたたかいご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

活動を充実させるためにご寄付も受け付けています。

郵便振替先

[ゆうちょ銀行]
郵便振替 口座記号番号
02240-8-128300
加入者：一般社団法人健太いのちの教室

銀行振込先

[七十七銀行]
本店営業部 店コード 100
口座番号 5087765

賛助会員年会費

個人	一口	3,000 円
団体	一口	10,000 円

編集・発行 一般社団法人 健太いのちの教室
住所 〒987-1304 宮城県大崎市松山千石字松山 220-1
発行日 2022年3月

Email tamuken@ark.ocn.ne.jp
Web <https://kenta-inochiclass.com/>



最新活動情報は
ウェブサイトで
確認できます

代表理事 田村 孝行 ・ 理事 田村 弘美

目次

代表挨拶	3
次年度活動指針	4
沿革 2021	5
まなびの広場 活動報告「東日本大震災から学ぶべきもの」	6
世話人挨拶 小佐井 良太 / 宮定 章	7
YouTube動画掲載/活動を支える世話人の方々	8
活動記録	9-24
愛媛大学 田中 拓海 七十七銀行女川支店事件訴訟レポート	25





次年度活動指針

代表あいさつ

はじめに、一般社団法人「健太いのちの教室」は2021年度2期目を終え、お陰様で4月より3期目に入るようになります。

これも、ひとえにご支援を賜ります世話人様はじめ賛助会員の皆様、またご縁を頂きました皆様のお力が有ってこそ出来たことでございます。深く感謝申し上げます。

私たちは、震災以降、女川の復興が進んで行くと同時に、あの時の風景が、あの時の記憶がどんどん消えつつある中、息子の最期の場に立ち、震災を忘れて欲しくない、ここで何があったのかを語り伝えながら、一人の親として何が出来たのか、模索してきた11年でした。

そして、設立から2期目も、災害と言える新型コロナウイルスの感染が収束しない状況でしたが、感染の状況を注視し感染対策をはかり、女川での活動、対面の講話、慰霊の訪問など出来る限りを実施致しました。

そのコロナ禍の中でも更に「伝え、繋ぎたい」という思いで、私たちが出来る事をしようと一昨年より実施しているオンラインでの活動に力点を置きました。オンラインの活動の狙いは、発信域の広さを活かし多くの方々に語り伝え活動の内容を知って頂き共有し、また近い将来コロナが収束した時、現地に行つて直接話を聴いてみようと思う種まきです。

その一つが健太いのちの教室オンライン「まなびの広場」です。世話人様を中心にテーマを掲げ学びあうワークショップを3回実施することが出来ました。そして、健太いのちの教室が事務局となり、震災遺族との緩やか連携で3・11ネットワークとしてフォーラム第4回「東日本大震災から学ぶべきも」も開催することが出来ました。

もう一つの活動として、「健太いのちの農園」です。自然の恵みに感謝しながら食べて元気と勇気が出る野菜作りに励みました。秋には、コロナ感染対策をはかり、地域の方々や繋がりを頂い

た方々に農園に来て頂き、子供さんを交えたサツマイモの収穫体験や災害非常食の作り方体験、地域のハザードマップの確認など災害への意識の共有もさせて頂きました。

2022年度は「コロナ感染症の収束もまだ見えない状況にありますが、昨年度同様に今私たちが出来ることを一つ一つ丁寧に活動していきます。活動の目標として、「命を守る企業防災・組織防災」「企業のあり方」の更なる浸透。ワークショップを企業の方・大学生・子供たちと各階層で実施。

震災より11年、これからの活動が最も大切なことと考え、能動的な動きと「伝える」から「伝わる」ように語り続けます。そして私たちの教訓を次世代へ遺すことも視野入れ心して活動して参ります。

世話人様はじめ賛助会員の皆様、またご縁を頂きました皆様には、何卒これからも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願いし、併せて皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。



活動目標1

「命を守る企業防災・組織防災」

「企業のあり方」の更なる浸透

次年度は、コロナ感染症の収束のまだ見えない状況にありますが、昨年度同様に今私たちが出来ることを一つ一つ丁寧に活動していきます。

主にワークショップを企業の方・大学生・子供たちと階層で実施し、それぞれが明日は我が身と置き換えて自分自身のものにして頂ける様に活動します。震災より11年、これからの活動が最も大切なことと心にして活動をして参ります。

活動目標2

「健太いのちの農園」活動で命の恵みに感謝を

自然の恵みに感謝しながら食べて元気と勇気が出る野菜作りに励みました。秋には、コミュニティの一環として地域の方々子供さん招いて里山収穫祭と題して、サツマイモ収穫体験をしてもらいました。今年も同様に「いのちの農園」での活動に力を入れて参ります。



2021年度 沿革 活動

- 4 伝承活動および研修 計40名
(河北新報新人研修7名、国営みやぎ東日本大震災津波伝承館説明員研修20名ほか)
- 5 伝承活動 計10名
オンライン情報交換 首都圏ほか7名
- 6 伝承活動および講話 計35名 (宮城県立古川高校キャリアセミナー20名ほか)
女川町オリンピック聖火ランナー
- 7 伝承活動および講話 計342名
(第一回まなびの広場実施、専修大学法学部法社会学特別講義、専修大学法学部ゼミ講和ほか)
- 8 伝承活動および講話 計11名
(立命館大学オンライン情報交換ほか)
群馬県御巣鷹山 日航機墜落慰霊献花
- 9 伝承活動および講話 計143名
(上智大学文学部新聞学科ゼミ講和、大東文化大学法学部講和、NTT 東日本階層別新人研修ほか)
- 10 伝承活動および講話、研修 計92名
(第二回まなびの広場開催、岩出山中学校交流会、愛媛大学ゼミ講話ほか)
- 11 伝承活動および講話、研修 計105名
(NTT 東日本階層別新人研修講話ほか)
健太いのちの農園 里山感謝祭
- 12 伝承活動 計34名
(日本赤十字オンライン説明会、第三回まなびの広場開催ほか)
- 1 伝承活動および講話、研修 計134名
(MEET 石巻オンライン講和ほか)
- 2 伝承活動および講話 計180名
(中央大学白門一新会講話、MEET 石巻ほか)
- 3 伝承活動および講話 計130名
(新潟県三条市月岡小学校オンライン講話、UPWARD 株式会社オンライン講話、横浜大豆戸フットボールクラブほか)

健太いのちの教室主催「まなびの広場」活動報告

東日本大震災から学ぶべきもののフォーラム

2021年度から健太いのちの教室の活動の一環として、全国の方々と東日本大震災の教訓をオンラインで伝え、毎回、いのちの教室の世話人様を中心にテーマ揚げ学びあう「まなびの広場」を開催しました。

毎回ゲストをお招きし、ゲストとのクロストークと参加者とのディスカッションを実施し未来のいのちを守るため何ができるのかを一緒に考えさせて頂きました。

今年度は三回、息子健太が幼い頃遊んだ松島町の自然豊かな里山にあるいのちの農園内コミュニティスペースより配信しました。また、フォーラム「第四回東日本大震災から学ぶべきもの」を実施。

2021.
07.11

第一回 ゲスト
永野海さん

ゲストは健太いのちの教室世話人、弁護士で防災士の永野海さんでした。著書の「みんなの津波避難 22のルール(合同出版)」から津波避難について3つのSを説明して頂きました。

初めのSスイッチ(逃げるスイッチ)次にSセーフ(安全な場所とルート)最後にSセーブ(避難後も命を守る)

また、銀行の事例を踏まえて災害時に組織の人命を守る3つの教訓として、事前の備えである避難訓練、人命優先の意識、組織内の風通しを良くすることを提言を頂き、参加の方と意見交換し提言を共有しました。

2021.
10.05

第二回 ゲスト
渡辺実さん

ゲストは健太いのちの教室世話人、まちづくり計画研究所 所長／防災・危機管理ジャーナリストの渡辺実さんでした。

「災害モードへの切り替え」のお話を頂きました。

その中から、自分や家族、地域を守るには、日常生活モードから災害モードへ速やかに切り替える必要性あり、緊急時には、「災害モード」発令で社会全体の意識を切り替えるということをも米国・大阪市の例を挙げて提言。

参加者の方と意見交換して提言を共有しました。

2021.
12.19

第三回 ゲスト
飯考行さん

ゲストは健太いのちの教室の世話人、専修大学 法学部・飯教授でした。「コミュニティからの伝承と繋がり」というテーマでお話を頂きました。

私たちの活動の拠点であるモニメントで多くの偶然の出逢いから交流を深め、そして活動の輪が広がり、未来の命を救うメッセージが幅広く発信されていることを、ご参加の方と確認することが出来ました。



2022.
2.20

第四回
東日本大震災から
学ぶべきもの

「第4回 東日本大震災から学ぶべきもの」10年間の歩み大切な命との向き合い方をテーマとして、震災遺族の連携を図り講演・パネルディスカッションを実施致しました。

大川伝承の会共同代表 鈴木典行氏、一般社団法人関上の記憶代表 丹野祐子氏、舟要洞場施設管理者 笹谷由夫氏、美江子氏、七十七銀行 女川支店被災者家族会 高松康雄氏に登壇して頂き、コーディネーターとして専修大学法学部教授飯考行氏による進行で行いました。130名のご参加を頂きました。

YouTube動画掲載



J:COM CSR 活動 | 震災アーカイブ

「未来へつなぐ 語り部の声 ～宮城県牡鹿郡女川町編～」

J:COM では、震災の記憶を風化させないこと、復興への思いを被災した方々と共有することを目的に、「震災アーカイブ」と題し 2016 年から震災に関連する映像作品を配信しています。

震災から 10 年以上が経過した今、震災からの学びや教訓を次世代につなぐ「伝承活動」が重要であると考え、震災伝承の連携組織「3.11 メモリアルネットワーク」と協力し、東北の語り部の方々の活動を映像化。

第 6 弾 宮城県牡鹿郡女川町編では、田村 孝行さん・弘美さんの映像をお届けします。（収録：2021 年 12 月）

絶対に忘れてはいけない震災の記憶を、映像を通じて未来につないでいきます。

<https://www.youtube.com/watch?v=iil4FxHN8bY>



東京 2020 オリンピック聖火リレー特別映像

「想いをのせて、ともに走ろう。」 #Tokyo2020

2021 年 6 月 19 日、宮城県牡鹿郡女川町。

1 人の聖火ランナーが東京 2020 オリンピック聖火をつなぎました。

田村孝行さん、60 歳。

田村さんは 2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の津波により、女川町で働いていた息子・健太さん（当時 25 歳）を失いました。以来、妻の弘美さんと 10 年にわたり命の大切さを語り続けてきた田村さん。田村さんにとって違和感があつた「復興五輪」という言葉。聖火リレーとの出会い。

トーチキスでのガッツポーズ、その意味とは。

田村さんの想いを、映像とともにご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=APFH6SecKOo>



私は、愛媛大学法文学部で法社会学という学問分野の研究・教育に携わり、法や裁判の役割を社会との関係で考えています。田村さんご夫妻と女川町の現地で初めてお会いしてお話をうかがったのは、2014 年 9 月のことでした。この時以来、田村さんご夫妻には折に触れてお話をうかがってきました。2017 年からは毎年、ゼミの学生たちと一緒に女川町の現地を訪れ、お話をうかがっています。2020 年はコロナ禍のためオンライン形式でしたが、健太いのちの教室」のご紹介も含め、ご夫妻の思いを学生たちと一緒に受け取りました。

七十七銀行女川支店事件の経緯で、私が最も疑問に思うのは、七十七銀行側の事後対応の問題です。なぜ、銀行は、健太さんたち女川支店勤務の行員仲間の死と真摯に

愛媛大学法文学部
教授・博士
小佐井 良太

向き合い、悼むことができなかったのか。なぜ、田村さんたちご遺族の悲しみに寄り添うことができなかったのか。もし、銀行が当時の避難体制を検証して田村さんたちご遺族に伝え、痛惜の念を持ちつつ企業として従業員の名を守るための「企業防災のあり方」を田村さんたちご遺族とともに考えようとする姿勢であったなら、田村さんたちご遺族が裁判の場での戦いを選択されることはなかったのかもしれない。

こうした事後対応の問題と法や裁判、法的責任とのかかわりを考えることは、私が田村さんご夫妻から教えていただいた課題です。これからも多くの人たちが、それぞれの立場で「健太いのちの教室」の活動から学びを得て、健太さんの生きたかった思い、田村さんご夫妻の思いを受け止めて、それぞれの形で社会に活かす機会となることを切に願っています。

宮定 章

健太いのちの教室の設立 1 周年おめでとうございます。

私が、田村様と出会いは、阪神・淡路大震災の慰霊の日（2016 年 1 月 17 日）です。

田村様は、神戸市中央区の東遊園地（神戸市で、震災の日が一番多くの人が訪れる会場）だけでなく、わざわざ長田区まで訪問されていました。そして、地区の 8 割が焼失する被害にあった御菅地区（私の所属するまち・コミュニケーションの事務所が所在の慰霊法要後の慰霊碑で手を合わせされていました）。

ちょうど私は、掃除・後片付けのため、事務所から公園にある慰霊碑まで行っているときでした。私は、熱心にお参りをされている方がおられるなど気になり、どちらからともなく、声をかけあいました。

田村様は、立ち話の後、お忙しい中、事務所まで寄ってくださり、住民やスタッフ等と語り合われました。田村様は、悲しみて語るのが難しい中でもあるに関わらず、5 年前の東日本大震災で、亡くなった御子息健太さんへの想いを語ってくださいました。その偶然の出会いから、お互いのメンバーが女川町と神戸を行き来する交流が始まりました。

東日本大震災直後、私は石巻市滞在中、雄勝町（田村様を通われる女川町の隣の町）の復興まちづくり支援活動をしていました。そこで、頻りに女川町を通りました。石巻から車で雄勝町に向かうとき、女川町立病院の前を通るとき、津波が到達した高台にある

病院の駐車場が目に入りました。その駐車場の下の道沿に、田村ご夫妻が、病院のある高台の下に位置するモニュメントの前に、いつも立たれていた様子が印象に残っています。その後は通る度に、いつもおられるのではないかと思います。車中ではありますが、モニュメントの方を見てしまいます。私が印象に残っているのは、田村ご夫妻は、雪降る日でも、誰か来られるのではないかと、モニュメント近くに立つておられたことです。（もちろん訪問されている方に話されている様子も、今日も来られているなあと印象的ですが。）

なぜなら、モニュメントの前に立つて、通り過ぎる方を待って声をかけられ、新たな出会いをたくさんつくっておられるからです。私が、田村様に、女川町でどのような出会いがあるのか、聞かせていただくと、田村様のことは知らずに女川町を訪問し、モニュメントの前に来て、田村様と出会い、防災を意識した方も数人おられるとおっしゃっていました。実際、女川町で田村様にそのようなして出会った若者が、友人を連れ、田村様の語りから学ぶため再訪している時に、私も一緒にさせていただき、田村様の語りが拡がっている様子を感じました。

今後も、健太いのちの教室の活動を継続されれば、ますます伝える機会が増えてくると思います。田村様の行動力を活かし、今後も女川で、そして全国で、防災意識を高められていかれること、益々のご活躍を祈念いたします。くれぐれもお身体にはご自愛ください。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



●活動を支える世話人の方々

順不同、敬称略

一般社団法人 大船渡津波伝承館 館長

ノンフィクション作家・評論家

一般社団法人 いのちを織る会 代表理事長

赤とんぼの会 代表エレベーター事故遺族

宮城教育大学 特任教授 3・11 メモリアルネットワーク共同代表

紡ぎの会 代表東武伊勢崎線竹の塚踏切事故遺族

東京千代田法律事務所 弁護士

専修大学 法学部 教授 博士（法学）

（株）まちづくり計画研究所 所長 防災・危機管理ジャーナリスト

特定非営利活動法人 まち・コミュニケーション代表理事、博士（工学）

和歌山大学 災害科学・レジリエンス共創センター 特任准教授

大阪市立大学 大学院 名誉教授 博士（法学）

福島大学 つくしまふくしま未来支援センター 客員准教授

金沢大学 准教授 博士（情報学）

兵庫県立大学 減災復興政策研究科 科長

徳島大学 人と地域共創センター 学術研究員 博士（工学）

中央法律事務所 弁護士

北見法律事務所（仙台） 弁護士

さとう法律事務所（仙台） 弁護士

千葉達朗法律事務所（仙台） 弁護士

愛媛大学 法文学部 教授・博士（法学）

齊藤賢治

柳田邦男

美谷島邦子

市川正子

武田真一

加山圭子

大城聡

飯考行

渡辺実

宮定章

高橋真

高木亨

井出明

室崎益輝

井若和久

永野海

北見淑之

佐藤靖祥

千葉達朗

小佐井良太

2021年 3月11日
朝日新聞

息子に約束 命を守るために語り続ける

「健太、約束します 父母」
震災から7カ月後。息子の葬儀の時に、あいさつ文を入れた封筒の表に書いた言葉を、宮城県大崎市の田村孝行さん(60)は、いつも自分に問うてきた。
津波で、長男の健太さん(当時25)を失った。七十七銀行女川支店の銀行員。支店長の指示で高さ10階の支店屋上に避難した後、約20分の津波が押し寄せた。行員12人が犠牲となり、うち8人は行方不明のままで。会社の管理下にある従業員の命を守るのは、誰なのか。目の前の高台にどうして逃げられなかったのか。

田村孝行さん(60)

無念の思いが消えない。安全な社会を作り、伝え続けていくことを、妻の弘美さん(58)と息子に約束した。
初めて取材したのは、2014年3月11日。表情は感情を抑え殺したように険しかった。しかし、いつの頃から、2人の表情がだんだん変わってきた。
2人は全国へ慰霊の行脚を続けた。15年に御巣鷹の尾根に登り、日航ジャンボ機墜落事故の犠牲者を追悼した。遺族の美谷島邦子さんから「まだまだ大変なのに、よく来てくれたね」と声をかけられた。神戸市長田区では、阪神・淡路大震災の犠牲者(矢木隆晴)

者を悼む法要に参列。JR宝塚線脱線事故の遺族とも交流が生まれた。つなかりに勇気をもらい、「悲しみを力に変える」と決意した。

昨春、長年勤めた会社を早期退職した。一般社団法人「健太いのちの教室」を設立。コロナ禍の中、画面越しに講演活動を続けていた。ある日、学生から言われた。「つらい体験を話したのに、どうしてそんなにニコニコしているんですか」
交流を積み重ねてきた。これで、よかったのか。「健太、約束を果たしたよ」といつか、言うつもりだ。



リモートで愛媛大の学生に講演活動。企業防災のあるべき姿など、これからの社会像を語り合った。記念撮影では必ず、健太さんが得意だったガッツポーズをする。2020年11月4日、宮城県松島町



2014 高台までの避難経路を確認する。七十七銀行女川支店(宮城県女川町)があった場所(画面中央)から歩いて数分の距離だった



2015 仙台高裁に入る。右は健太さんの遺影。裁判で企業防災のあるべき姿を問うたが、控訴は棄却。その後、最高裁で敗訴が確定した



2017 「実際に来てみないとわからない」と兵庫県尼崎市のJR宝塚線脱線事故が起きた現場を訪れた。持参した花束を供えた



2020 遺族が建てた慰霊碑前で、記者を志望する大学生らに語る。「自分の命は自分で守って」。七十七銀行女川支店があった土地(奥)はかさ上げされた

◇この別冊り特集の紙面編集は福田隆弥、野村杏実が担当しました。

2021年 7月13日
河北新報

災害時の避難行動考える

大崎・一般社団法人専門家招きオンライン会議



災害時の避難行動について画面越しに話す
田村さん夫妻（宮城県松島町の「健太の
ちの教室」事務所）

東日本大震災の教訓を語り
継いで未来の命を守ろうと、
大崎市の一般社団法人「健太
いのちの教室」は11日、災害
時の避難行動を考える「第1
回まなびの広場」をオンライン
で開いた。随時開催し、防
災の専門家をゲストに招いて
意見交換しながら理解を深め
る。

全国から約30人が参加し
た。宮城県女川町の七十七銀
行女川支店で勤務中だった長
男健太さん（当時25）を津
波で亡くした代表の田村孝行
さん（60）が「誰も遺族になら
ない安全な社会を皆さんとつ
くりたい」と開催趣旨を説明
した。

妻弘美さん（58）は、健太さ
んが上司の指示で避難した支
店屋上で津波にのまれた点に
触れ「勤務中に自分で判断し
て避難することは困難。勤め
先が従業員の命と真剣に向き
合っているか考えてほしい」
と呼び掛けた。

初回は津波防災に詳しい永
野海弁護士（静岡県弁護士会）
がゲスト参加した。震災の津
波訴訟について「災害時に企
業や学校がどう安全配慮義務
を負うかが示された」と振り
返り「一方で従業員を災害か
ら守る規定はない。職場での
訓練の積み重ねが重要だ」と
指摘した。

参加者からは「職場の防災
訓練を義務化できないか」「小
学校では防災教育の時間を確
保し、抜本的な改革が必
要だ」といった意見が出た。
今回は8月29日に開催予
定。

震災と企業災 慰霊の絆

乗客乗員520人が犠牲となった1985年の日航ジャン
ボ機墜落事故から36年となった12日、墜落現場の「御巣鷹の
尾根」（群馬県上野村）を東日本大震災の津波で亡くなった
田村健太さん（当時25）の両親が訪れ、山頂付近に点在す
る慰霊碑に向けて静かに祈りをささげた。



美谷島健君の慰霊碑に野球ボールを供える田村孝行さん（右）と弘美さん
＝12日午前10時30分ごろ、群馬県上野村

2021年 8月13日
河北新報

大崎・田村さん 御巣鷹へ

日航によると、12日は遺族143人が「御巣鷹の尾根」への慰霊登山に参加した。昨年と同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響や台風被害を考慮し、遺族や日航の赤坂祐二社長ら関係者のみが入山。墜落した場所に立つ「昇魂之碑」に献花して手を合わせ、安全を願う鐘が鳴らされた。

2年前まで連続して270人を超えていたが、大幅に減った。高齢の遺族も多く、「一緒に行きましょう」「大丈夫ですか」と声を掛け合いながら登る姿も。マスクを着け、汗を拭いながら尾根を目指した。

叔父の加藤博幸さん＝当時（21）＝を亡く

コロナや台風被害考慮 登山 143人が参加

した東京都世田谷区の小林弘樹さん（36）は3歳の息子を含む家族で訪れ、「僕らや下の世代が登らないと事故が忘れられる。自分も祖父から聞いた当時の心境を、今度は息子に伝えて、いつか自分で登るきっかけにしてほしい」と話した。

2019年の台風19号で尾根に向かう村道や登山道の複数箇所が崩れた。村によると、登山道入り口付近の斜面下には今年7月、高さ約6.2mの防護柵が設けられたが、全面復旧に至っておらず、8月下旬に再度通行止めにし工事を進める。

遺族同士交流 静かに祈り

新型コロナウイルスの影響で2年ぶり6度目となる慰霊登山に臨んだのは、大崎市の田村孝行さん（60）と弘美さん（58）夫妻。長男の健太さんは、七十七銀行女川支店（宮城県女川町）に勤務中、上司の指示で支店屋上で避難した津波の

犠牲となった。震災後、夫妻は企業防災の在り方を考える活動を始め、企業が起した全国的事件を調べる中、日航機事故で次男健君（当時9）を亡くした美谷島邦子さん（74）と出会い、交流を重ねてきた。震災10年を経て臨んだ今回は、野球が大好きだった健君の慰霊碑に、高校野球で捕手として活躍した健太さんの練習球を供えた。ボールには孝行さんが「愚直に一つ一つ」と書き添え、安全な社会づくりに向けて活動していくことを誓った。

弘美さんは「事故が起きた年に健太が生まれ、名前の健の字も一緒。御巣鷹で美谷島さんと会う度に、その優しさに救われてきた」と感謝する。田村さん夫妻の来訪を受け、美谷島さんは「遺族の高齢化が進み山に登りたくても登れない人もいます。慰霊に来てもいい人がたい」と話した。（写真映像部・高橋諒）

2021年 10月28日
河北新報



田村さん夫妻（後方）にすずめ踊りを披露する生徒たち
26日、女川町の町民青少年センター

感謝のすずめ踊り披露 大崎・岩出山中3年生

大崎市岩出山中の3年生52人が26日、新型コロナウイルスの影響で中止になった修学旅行の代わりに、東日本大震災で被災した気仙沼市や女川町などを訪れ、防災学習に取り組んだ。

女川町では、津波で亡くなった七十七銀行女川支店の元行員田村健太さん＝当時(25)＝の両親で、2月に同校であった特別授業「いのちの教室」で講話した父孝行さん(61)母弘美さん(59)夫妻（大崎市）と再会し、交流を深め

た。生徒代表の佐々木遥矢さん(15)が「愛する健太さんの思いを私たちに話してくれた田村さんに感謝の気持ちを送ります」と話し、すずめ踊りを披露。全員で「フレイフレイ田村」とエールを送った。

弘美さんは「気持ちのこもった演舞に元気をもらった。どんな地域に行っても自分の命をしっかりと守る意識を持ってください」とあいさつした。

女川で震災遺族と交流





2022年 2月13日
京都新聞

語り継ぎ、未来の命救いたい

それぞれの人生が (第5部)

「健太いのちの教室」代表理事 田村孝行さん (61)



「命を第一に考える企業、組織、社会に変えていくために活動を続けよう」と話す田村孝行さん(宮城県大崎市市内の自宅)＝栗の弘美さん撮影

企業防災訴え「備えに良心必要」

東日本大震災の日、宮城県女川町にある地元銀行の女川支店では、単に避難した行員とスタッフ約10人が約20分の高さの津波に襲われた。1人は奇跡的に助かったが、4人が亡くなり、支店長ら8人は行方不明になっている。

田村孝行さん(61)は妻の弘美さん(59)と来る日も来る日も、連絡が取れなくなった行員の長男健太さん(当時25)を捜し続けた。

「季節が変わるのも気が付かないほどでした。半年後の2011年9月、健太さんは約3.5km沖の海で見つかった。上着と靴はなかったが、初任給で作った着用のスウェーチン、ネクタイやネクタイピンも発見された。

「海の中でも仕事をし、

必死に私たちのとるへ戻らなければならぬ思いで帰って来てくれたと感じました」

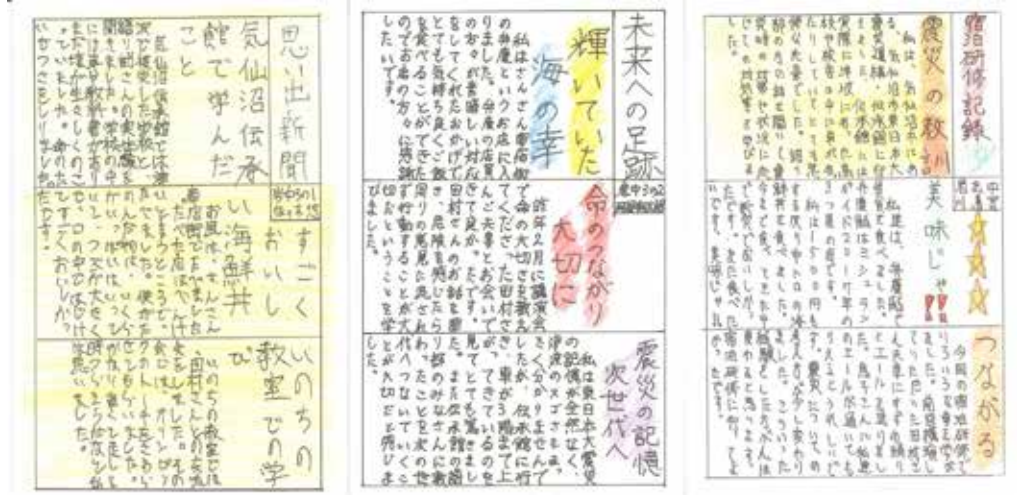
銀行から帰得できる答えが得られず、真実を知りたいと断腸の思いで他の遺族と民事訴訟に踏み切った。

「支店はリンス(式)海岸の商業の埋め立て地にあり、海からわずか約100m。なぜ、町の指定避難場所である目の前の堤切山ではなく、女川町内の他の金融機関は堤切山なほど高台に逃れ、職員の犠牲者はなかったのに」との問いをめぐり、妻の弘美さんも、最高裁まで訴えた。判決の主な内容によると、震災の2年前に銀行は避難場所として支店の屋上を追加、「宮城県地震被害想定調査」に関する報告書で女川町の津波の予想最高水位は5・9mとされているにもかかわらず、支店の屋上(二階)は約10m、一階は約13・35mと、避難するほどの高さの津波襲来の予見は可能でなく、安全配慮義務違反を認めるとはできないとの判断だった。

ただ、高裁は法的義務の観点から遺族の訴えは退けたが、「津波への対応として、堤切山へ避難を指示していれば、被災した行員の命が救われていた可能性は大きかったというから、避難場所として本屋上が指定され行員らが被災するに至った点については極めて残念な結果といわざるを得ない」と述べた。

田村さんは「堤切山へ避難すれば命が救われていた可能性があったと判決で言ってもいい、訴訟をした大きな意味がありました」と言う。そして「民事にも、刑事の重大事件のように一般市民から選ばれる裁判員制度が導入されれば、遺族の声を司法にもっと聞きやすくなるのでは」と提案する。

震災後に取り壊された支店跡には花を植え、花壇を作った。1種類と海からまた遠くない方が戻る目印にとの願いを込めて、妻の弘美さんも約500株の花壇を立ち上げ、被災地を訪れる「一人一人」を思いながら、花壇を飾る。田村さんは、こう問い掛ける。『随時掲載します』



【記録】 秋の里山感謝祭

秋の里山感謝祭
2021年11月7日(日)

収穫体験 参加者募集!

健太いのちの農園

場所 松島町北小原農園34 棟内(森山様農園)

時間 AM10:00~PM15:00 (小雨決行)

参加費 無料

※お申し込みは、お申し込みフォームにて、お申し込みください。

問合せ・申し込み 一般社団法人 健太いのちの教室 090-8028-5483 田村



2022年 2月21日
毎日新聞

伝え続け 未来の命救う

東日本大震災の発生から11年を迎えるのを前に、被災者家族の歩みと未来の命を救うために取り組む「東日本大震災から学ぶべきもの」10年間の歩み・大切な命との向き合い方」が20日、石巻市で開催された。伝承活動などに取り組む遺族らが10年あまりの月日を経て感じる心の変化と、安全な社会の実現へ向けた希望を語り合った。

【石巻市】

くした大川（佐賀の会）共同代表の鈴木典行さん（57）は被災校舎前で語り部を務める理由を「10年たっても思いは変わらないし、時は止まったままだが、あの場所ですら活動できるのは、真実がそこにはあると思えるから。伝え続けることで未来の命を救いたい」と話した。名取市の開上1年生だった長男公太さんが当時13歳をこえて、区の伝承交流施設「M復興記念資料館」を運営する「開上の記憶」の代表を務める内野裕子さん（53）は「津波が来ないと思いきや、逃げなかった愚かな母親の一人」と後悔を語った。同日市立大川小で当時6年生だった次女真衣さん（当時15歳）を亡くした遺族らも参加した。

遺族ら、安全な社会願ひ 石巻でフォーラム



苦しみを抱きながら「これは幸せ」と言葉を交わす遺族たち。田村健太さん（61）は、企業で働きながら、被災校舎で語り部を務める。遺族らも参加した。田村さんは、企業で働きながら、被災校舎で語り部を務める。遺族らも参加した。

会った縁から遺族同士が連携するための団体「健太いのちの教室」を設立した。「自分と同じように、命を第一に考える社会の実現を願う活動する遺族とつながり、勇気をもたせ、生きる勇気になった」と力を込めた。後援のハネルデイスカッショでは、健太さんと同じ職場で津波にのまれ、今も行方不明だった妻の行方を探し出す高松健太さん（55）がマイクを握った。高松さんは、津波の被害を受け、自ら水中を救助して「海底に沈んだまま、やめようと思ったが、やるべきことはゼロになる。夢や、この海のどこかにいると思えて、近くに行けた気がする。体力の限界を越えたい」と話した。語り部を務める内野裕子さん（53）は「死んだら私の存在は『死んだら私の存在は』と語った。田村さんの妻弘美さん（59）は『私たちの活動には遺族があり、銀行員の発信し、ともに再発防止の取り組みをしていく』と願いを込めた。

2022年 3月6日
産経新聞 1面

企業防災 社員の命守れ



1 たは行方不明となった。町指定避難場所だった堀切山は支店から約260m。当時、行内で働き、指示に従って屋上に行った従業員の田村健太さん（当時25）は「なぜ支店から走って1分ほどの高台に逃げず、屋上に行ったのか」父、孝行さん（61）と母、弘美さん（59）の疑問はいまだに消えることはない。



揺れは、多くの人が職場で働いている平日の午後に襲いかかった。その後、沿岸部には大きな津波が押し寄せ、働く人々をのみ込んでいった。宮城県女川町の七十七銀行女川支店は海から約100mのところにあった。地震後、支店長の指示で従業員13人が2階建ての支店屋上（高さ約10m）に避難したが、津波で12人が死亡した。

津波に襲われた七十七銀行旧女川支店周辺（平成23年3月20日、宮城県女川町）

東日本大震災11年

13面に「復興の大動脈」

ラジオ出演情報

3月7日

KBS京都 ほつかほかラジオ生放送

【番組概要】（公式ウェブページより）

笑福亭晃瓶のほつかほかラジオ。毎週月・金曜日放送。笑福亭晃瓶と中村薫が毎週選りすぐりのトークをお届け。

3月9日

文化放送

大竹まことゴールデンラジオ大竹発見伝（ザ・ゴールデンヒストリー）

東日本大震災私たちの11年

【番組概要】（公式ウェブページより）

「面白いけれど、真剣に、くだらないけれど、正直に。価値観の急激な変化が迫られている今。様々な歪みが生じ、いろいろな事件、難解な問題が日々起こっています。」

高齢者対策、団塊の世代の今後、少年犯罪、少子化、…、細部では、コミュニケーションから生じる様々な事件、コンプライアンスやモラルの問題、日本のあり方まで。

本場に大事なことは、今、時代に注目してゆき、個人がいろいろな問題に疑問を持ち、考え、行動する事です。「大竹まことゴールデンラジオ」は、大竹まこと同世代を中心に、全世代の男女に向けてお送りします。

厳しい時代に、頑張つて生きている人々たちを応援し、番組を通じて楽しいこと、素敵に生きること提案、日々変化するニュースを扱いながら、エンタテインメントの心を忘れずに、筋の通った本気の発言をしてゆきます。

2022年 3月6日
産経新聞

天災
人災
想定外を超えて

1面から続く

東日本大震災の津波で、七十七銀行女川支店の屋上に逃げた長男の健太さんを失った田村孝行さん夫妻。ほかの遺族と原因究明や支店の解体取りやめなどを銀行に求め続けたが、十分な回答は得られず、支店は今も跡形もなくなった。

「このままでは、健太の死が何もなく終わったことになる」と、田村さんは訴えている。

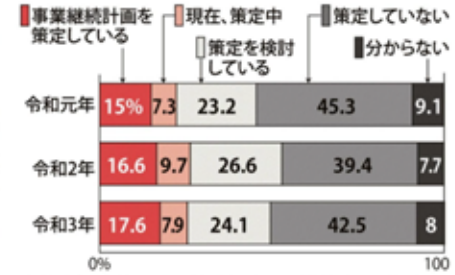
夫妻は平成24年9月11日、提訴に踏み切った。弘美さんは「息子が降りたに似ていた銀行を相手に訴訟を

「事業計画」進めめ策定



「ささやかな活動が社員の命を守る役に立つなら」と話す田村孝行さんと弘美さん
＝2月、宮城県松島町（大塚美咲撮影）

災害時などの企業の事業継続計画（BCP）の策定率は依然として低水準だ



状況は分けたのは、防災や事前準備だけではなく「行内の雰囲気」でもなく、健太さんにとって、上からの指示を無視して逃げるのが困難だったことは想像に難くない。

被害報告義務なし

震災で実際にどれくらい企業が被災したか、実態ははっきりしていない。企業には被災状況を国に報告する義務はなく、国も実態調査をしていないからだ。

そのため、災害などの非常時に社員の命を守るための対策は企業側に委ねられている。震災を機に「事業継続計画（BCP）」の必

息子の死は防げたはず

事業継続計画（BCP）

災害やテロなどの緊急事態に備え、重要業務の継続と復旧ができるように企業が策定しておく事業計画。「Business Continuity Plan」の頭文字を取った。製造業の供給網に被害が出た東日本大震災で認知が広まったとされ、新型コロナウイルスなど感染症への対応も求められている。

要件は高まったが、導入が進んでいないのが実情だ。帝国データバンクが昨年行った企業の意識調査（有効回答企業1万1242社）によると、BCP策定率は17.6%。過去最高となったが、依然として低水準だった。「策定中」や「策定を検討している」を含めても5割ほど。規模別で見ると、大企業が32.0%に対し、中小企業では14.7%にとどまった。

「最善を尽くして」

田村さん夫妻は女川町の被災地を訪れる人々に震災の教訓を伝えてきた。令和

「最善を尽くして」

夫妻は銀行側に3月11日には遺族とともに献花してほしいと要望している。夫妻らが建てた慰霊のモニュメントへの訪問も望んでいる。まだかつてはいないが、あきらめない。日航機墜落事故やJR福知山線脱線事故の遺族と交流するなかで、遺族とのやり取りが企業側を変えていったことを知っているからだ。それでも、遺族から働きかけないで変わらないう状況は間違っていると思う。企業は「命を守るために、企業には最善を尽くす努力をしてほしい」

健太さんのためにも。そう強く願っている。



忘れない 青空に誓う

東日本大震災の津波で亡くなった宮城県女川町の七十七銀行女川支店元行員、田村健太さん＝当時（25）＝の両親と、親交のある事故遺族らが10日、町内で犠牲者を慰霊し、教訓伝承に向けて誓いを新たにしました。

町内に立つ行員の慰霊モニュメント前に健太さんの父孝行さん（61）、母弘美さん（59）ら遺族5人が集まった。追悼の思いを込め、空に向かってシャボン玉を飛ばした。

田村さん夫妻と事故遺族らは1985年に日航ジャンボ機墜落事故が起きた群馬県上野村

の「御巣鷹の尾根」に慰霊登山したり、シンポジウムを共催したりするなど交流を重ねている。

2006年のシンドラー社エレベーター事故で長男大輔さん＝当時（16）＝を失った東京都の市川正子さん（69）は「どんなに時間がたっても悲しみに終わりはしない。同じ思いを抱える震災遺族に力をもらっている」と語った。

墜落事故遺族会の事務局長で東京都の美谷島邦子さん（75）は「出来事を忘れられてしまうのが一番つらい。若い人への伝え方を共に考えていきたい」と話した。

女川 事故遺族ら犠牲者悼む

2022年 3月11日
河北新報

2022年 3月12日
河北新報

帰ってきて海に献花 女川沖

東日本大震災の津波で12人が死亡・行方不明となった女川町の七十七銀行女川支店の行員家族ら6人が11日、町内の桐ヶ崎漁港沖に船を走らせ、海上に献花した。

行員は4人が亡くなり、11年たった今も8人の行方が分からない。家族らは犠牲者の名前を海に向かって呼び掛け、再会への願いを込めた花束を手向けた。

支店跡地を望む高台にあるモニュメントには知人ら約20人が集まった。震災発生時刻の午後2時46分に黙とうをささげ、線香を供えた。

妻の祐子さん（当時47）が「行方不明で、潜水士の資格を取って手掛かりを捜す女川町の高松康雄さん（65）は「時間がたち捜索は年々厳しさを増しているが、諦めずに妻を見つけた」と決意を新たにしていた。町中心部の開発工事に伴い、モニュメントは近く町内の別の場所に移る予定。



「早く帰ってきて、声を掛けながら海に献花する七十七銀行女川支店の遺族ら11日午後1時20分ごろ、女川町の女川湾

「命のバトン一人一人に」

東日本大震災の津波で長男を亡くした宮城県大崎市の田村孝行さん（61）と妻弘美さん（59）が3月、三条市立月岡小の6年生にオンラインで授業をした。企画した稲崎大知教諭（27）は大学時代、ボランティアとして訪れた被災地で夫妻と出会った。教師になり「子どもの話をすることが未来の命を救う」という2人からのバトンを児童につなげた。

日本大震災
東大11年

ぼに立ち、足を運ぶ人は、高校時代に起きに話し掛けた。18年秋、大震災に衝撃を受け、足を止めた一人が稲崎さんだった。

◇ 埼玉県出身の稲崎さん、大学でボランティア活動に所属、何度も被災地を訪ねていた。適切に避難すれば助かっ

たと思い、教諭を語り継ぐ2人に胸を打たれ、交流が始まった。新大崎の大学院に進み、夢だった教員となる。新潟も過去に地震や水害を経験。夫妻と共に児童に防災教育がしたいと考えた。今年3月4日、新潟の教室と夫妻がオンラインでつながった。避難場所の確認や訓練の大切さを説いた孝行さん。弘美さんは家族写真や動画を映し、野球を愛した息子（右）の様子を愛した息子の様子

や、就職後の週末に寮から帰ると、ワイシャツを洗って送り出した思い出を語った。幸せな日常の尊さを通じ「私たちにできることは、命のバトンを一人一人に手渡すこと」と伝えた。原野大君（12）は「災害は人ごとではないと思った」と感想を話した。

そして、震災11年の3月11日、2人はいつもの慰霊碑に手を合わせた。青空の下、供花が風にそよぐ。弘美さんは授業を経て「まい

た種が芽吹いてきた」と感じた。石碑をさす

って、健太さんにこれ

からも一緒に歩んでい

こうね」と語り掛けた。

宮城・長男亡くした夫婦と三条の教諭 交流

2011年3月11日、長男健太さん（当時25）は勤務先の七十七銀行女川支店（宮城県女川町）にいた。津波から約100メートル、上司の指示で屋上にとどまり、津波にのまれた。「誰も遺族にならない安全な社会になるように」。夫妻は日航ジャンボ機墜落事故の遺族らとも交流しながら、防災や教訓を伝えている。



田村夫妻とオンラインでつながり、授業をする稲崎大知教諭（左）と三条市立月岡小で

児童にオンラインで防災教育



3月11日、七十七銀行女川支店跡地近くの慰霊の花壇で、手を合わせる田村孝行さん（右）と弘美さん（宮城県女川町）で



愛媛大学 小佐井ゼミ
田中 拓海

七十七銀行女川支店 事件訴訟レポート

実際に現地を見てまず感じたことは、本当にすぐそばに高台があるということだ。

地図上ではどうしてもその距離がリアルには感じられなかったが、この目で現場を見て、高台に避難している人の声が聞こえる場所にいながら、銀行の屋上以上の場所に避難できていないのはおかしいとすぐに思った。

また、避難の際に屋上には初めて上ったのとことだが、屋上を避難場所に指定していたのであれば震災の時まで屋上に一度も上ったことがないのはどういうことなのか。そもそも屋上を避難場所にしていたのかも怪しく、それ以前に避難場所に指定するべきではなかったが、仮に屋上を避難場所にしていても、このような点から普段の訓練が疎かにされていたのだと感じた。

個人で動くことができれば助かった命が、企業管理下にあるという理由で助からないというのは絶対にあってはならないことだと思う。しかし、自分が同じ状況になったとき、上司の命令に背いて逃げるができるかと問われるとそれは無理かもしれない。

大人であれ、組織の管理下に置かれているという状況では、行動が著しく制限されてしまう。だからこそ企業は人命を最優先に考え、全力で社

員を守らなければならないのではないだろうか。命は天秤にかけるまでもなく、何よりも重いことは自明だ。経済合理性が人命より優先されて良いはずがない。

裁判では遺族側が敗訴という形になったが、記録として残ったこの事件を踏まえて、社会は一度企業の防災を考えることが求められると思う。また、事件後の銀行の対応も酷いものだが、それでも辛い思いをした遺族の側から行動を起こさないと問題が解決には向かわないという現状にやるせなさを感じた。

遺族の精神的負担を少しでも軽くするために、事件事故の被害者遺族をサポートする制度の充実化は図られなければならない。田村さん夫妻のように、積極的に行動している遺族の方を支援する仕組みが作られれば、より有意義な活動を行うことができるはずである。社会は、情報を発信してくれている人の言葉に耳を傾け、意見を尊重してより良い未来へともに歩みを進めるべきだ。

女川町を歩いてみても、震災遺構である日女川交番は手入れがほとんどされておらず草が伸び放題で、七十七銀行女川支店の誓いの碑も周りを木で囲われた状態でひっそりと設置されており、本当に震災の教訓を今後につなぐ意思があるのか疑問に感じることも多かった。二度と同じことを起こさないよう遺族の方が語り部活動などを通じて尽力されているのに行政はそれに応える気があるのだろうかとも思った。

何を伝えたいのかはつきりさせないと遺構も教訓も朽ちるだけである。遺族と行政・社会とのギャップの問題は、失われた命に意味を持たせる

ためにも考えなければならない。

自分自身、実際に現地へ行き、当事者のお話を伺った身として、今回学んだことを家族や友人など、周りの人間に伝える責任がある。そして少しでも風化させないよう、語り継ぐことができたいと思う。

おわりに

田村孝行さん、田村弘美さん。先日は貴重なお時間を頂きましてありがとうございました。

お二人の熱のこもったお話を伺い、健太さんはご家族にとっても愛されていたのだと感じました。

1年後に就職を控える身として、企業防災の在り方について今回のフィールドワークで学んだことをもとに改めて考えていきたいです。

また、私も健太さんの命のバトンをつなぐお手伝いになればと、微力ながら自分にできることを探して行動したいと思います。

本当にありがとうございます。



小佐井ゼミ 女川町にて撮影 2021 10 28

